



平成 31 年 2 月 7 日
海 上 保 安 庁

世界中の海洋データの専門家が東京に初集結！

～ 「海洋データ情報の国際交換に関する国際科学カンファレンス」開催～

海上保安庁は、日本では初となる、国際的な海洋データの利用促進及びその管理について意見交換を行う「海洋データ情報の国際交換に関する科学カンファレンス」を、2月18日(月)～19日(火)、ユネスコ政府間海洋学委員会(UNESCO/IOC)と協力し開催します。

この会合は、海洋データの国際交換促進による海洋の調査研究や利用開発等の発展に向け、将来の海洋データの利用促進及びその管理について、世界各国、国際機関、国際プロジェクトの代表者といった約40カ国、100名を超える専門家が一堂に集まり、意見交換を行うものです。

海上保安庁は、国内の海洋データを一元的に管理・提供する機関である『日本海洋データセンター(JODC)』を運用する、国の代表機関として、この会合に参加します。

この会合の結果は、2017年国連第72回総会決議により、2021年から取り組むこととなる国連の「持続的開発目標(SDGs)に向けた海洋科学のための国連10年」の実実施計画等に反映される予定であり、海洋環境の保全に向けた国際的な取組等に資することとなります。

また、我が国が進める海洋状況把握(MDA)の能力強化のための国際連携に大きく貢献することが期待されるとともに、今春から運用を予定している『海洋状況表示システム』の掲載情報の充実にも寄与します。

[JODC]、[SDGsに向けた海洋科学のための国連10年]、[海洋状況表示システム]については別添参考をご覧ください



平成 29 年 3 月に開催された第 24 回会合の様子

1. 主催者等

主催：UNESCO/IOC 国際海洋データ情報交換プログラム
協力：海上保安庁、東京大学大気海洋研究所、
（一財）日本水路協会

2. 開催日時・場所

日時：平成 31 年 2 月 18 日(月)09:30～18:00

(08:30 開場)

2 月 19 日(火)09:30～17:00

場所：イイノホール&カンファレンスセンター
(東京都千代田区内幸町 2-1-1)

3. プログラム

別添プログラム案をご参照ください。

※プログラムは講演者の都合により変更される場合があります。

最新の情報は UNESCO/IOC の以下のサイトを参照してください。

https://iode.org/index.php?option=com_content&view=article&id=583&Itemid=100394

4. 参加方法

参加・取材の申し込みについては、別紙をご参照ください。

※参加・取材については事前登録制です。(参加は先着順 200 名まで)

※会合は日英同時通訳付、参加費無料です。

海洋データ情報の国際交換に関する国際科学カンファレンス
への参加等について

科学カンファレンスへの参加について

科学カンファレンスへの参加は事前登録が必要です。参加を希望される方は、以下の情報を添えて電子メールでお申し込みください。

なお、会場の都合により、定員（200名）に達し次第、受付を終了いたします。

申込先：iode25@jodc.go.jp（申込専用メールアドレス）
件名：IODE25 科学カンファレンス参加申込み
ご所属：
お名前：
連絡先：

※国際科学カンファレンスは、日英同時通訳付、参加費は無料です。

国際科学カンファレンスの取材について

国際科学カンファレンスは報道関係者の方による取材（傍聴・カメラ撮り）も可能です。取材を希望される方は、2月15日（金）15時までに、下記問合せ先まで事前登録をお願いします。

取材に関する問い合わせ先
海上保安庁海洋情報部海洋情報課 担当 馬場、黒川
電話：03-3595-3612
電子メール：iode25@jodc.go.jp

IODE 25 科学カンファレンス

主催 : UNESCO 政府間海洋学委員会 (IOC) 国際海洋データ情報交換 (IODE)
 協力 : 海上保安庁, 東京大学大気海洋研究所, 一般財団法人日本水路協会
 開催場所 : イイノホール&カンファレンスセンター
 東京都千代田区内幸町 2-1-1

全体日程

平成 31 年 2 月 18 日 (月) 09:30~18:00 (受付 0830 開始)
 平成 31 年 2 月 19 日 (火) 09:30~17:00

プログラムの詳細 (2019 年 1 月 28 日現在)

プログラムは講演者の都合により変更される場合があります。

最新の情報は UNESCO/IOC の以下のサイトを参照してください。

<https://iode.org/index.php?option=com_content&view=article&id=583&Itemid=100394>

2 月 18 日(月)		2 月 19 日(火)	
08:30	受付開始		
09:30	1. 開会	09:30	Fred Grassle 記念講演
	開会の挨拶 IODE 共同議長 文部科学省 国際統括官		Fred Grassle 博士の業績紹介, <i>Dr Cyndy Chandler, IODE Co-Chair, U.S.A</i> 講演: <i>Dr Yoshihisa Shirayama, JAMSTEC</i>
09:50	2. 持続的開発のための海洋科学国連 10 年	10:05	6. 将来の IODE と国連 10 年等出現する機会
	基調講演: <i>tbid</i> 発表 1: General overview of the UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development, <i>Dr Vladimir Ryabinin, IOC Executive Secretary</i> 発表 2: The Decade and UN partners, <i>Mr Julian Barbière, IOC/MPR Head</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Prof Yutaka Michida, IODE Co-Chair, the University of Tokyo</i>		発表 1: Ocean Best Practices, <i>Mr Jay Pearlman, USA and Ms Pauline Simpson, Cayman Islands</i> 発表 2: IOC Ocean Data and Information System, <i>Mr Tobias Spears, Canada and Mr Arno Lambert, Belgium</i> 発表 3: Capacity Development: IODE products that can contribute: OTGA RTC mechanism, OTGA e-learning platform, OceanExpert, OTGA alumni system, ... , <i>Dr Claudia Delgado, Belgium</i> 発表 4: Cooperation between GEBCO and IODE, <i>Dr Graham Allen, UK</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Dr Sergey Belov, Russia</i>
10:50	休憩・ポスターセッション	11:15	休憩・ポスターセッション
11:20	3. 地域における IODE の取組	11:45	7. パートナーとの協力
	基調講演: <i>Prof Yutaka Michida, IODE Co-Chair, the University of Tokyo</i> 発表 1: WESTPAC: Data and information exchange efforts in WESTPAC and AOGEO, <i>Dr Kentaro Ando, JAMSTEC</i> 発表 2: IOCAFRIKA: <i>Ms Arame Keita, Senegal</i> 発表 3: IOCARIIBE: <i>tbid</i> 発表 4: IOCINDIO: <i>Mr Pattabi Rama Rao Eluri, India</i> 発表 5: Europe: <i>tbid</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Ms Paula Sierra, Colombia</i>		基調講演: <i>Prof. Toshio Yamagata, Prof. emeritus of the University of Tokyo</i> 発表 1: Utilization of Maritime Spatial Data in GIS, <i>Mr Yosuke Sakurai, Esri Japan Corporation</i> 発表 2: New Basic Plan on Ocean Policy and Japan's Efforts for Ocean Data and Information Sharing, <i>Mr Taisei Morishita, Counsellor, National Ocean Policy Secretariat, Cabinet Office</i> 発表 3: Japan's Contribution to UN Decade of Ocean Science for SD, <i>Mr Tatsuya Watanabe, Director for Deep Sea Research, MEXT</i>
12:40	昼食・ポスターセッション	12:50	昼食・ポスターセッション

2月18日(月)		2月19日(火)	
13:40	4. 能力開発 基調講演: <i>Mr Ariel Troisi, Argentina</i> 発表1: OceanTeacher Global Academy <i>Prof Aidy Muslim, Malaysia</i> 発表2: IODE Clearing-House Mechanism for Transfer for Marine Technology (CHM/TMT), <i>Ms Paula Sierra, Colombia</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Mr Taco de Bruin, Netherlands</i>	14:30	7. パートナーとの協力(続き) 発表4: ISC Future Earth "Knowledge Action Networks and Ocean Science", <i>Dr Mitsuo Uematsu,</i> <i>Prof. emeritus of the University of Tokyo</i> 発表5: UNEP and Regional Seas Contribution to the Development and Follow up of Ocean-related SDG Indicators, <i>Dr Lev Neretin, Coordinator, Northwest Pacific</i> <i>Action Plan (NOWPAP)</i> 発表6: PICES, <i>Dr Joon-Soo Lee, KODC, Korea</i> 発表7: Nippon Foundation: The Importance of Partners in Forming the Future of Oceans, <i>Mr Mitsuyuki Unno, Executive Director of the</i> <i>Nippon Foundation</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Mr Norio Baba, Japan Oceanographic</i> <i>Data Center</i>
14:45	休憩・ポスターセッション	15:45	休憩・ポスターセッション
15:30	5. 国連10年への貢献が期待される取組との IODE の協力 基調講演: <i>Dr Cyndy Chandler,</i> <i>IODE Co-Chair, USA</i> 発表1: SDGs, <i>Dr Kirsten Isensee, France</i> 発表2: GOSR, <i>Dr Yoshihisa Shirayama, JAMSTEC</i> 発表3: COMM to JCOM, <i>Prof Nadia Pinardi, Italy</i> 発表4: MCDS and WIS, <i>Mr Tim Boyer, USA</i> 発表5: Open access to GTS project, <i>Mr Kevin O'Brien, USA</i> 発表6: World Data System, <i>Dr Rorie Edmunds, WDS-IPO, Japan</i> 発表7: World Ocean Database, <i>Mr Tim Boyer, USA</i> 発表8: Ocean Biogeographic Information System, <i>Prof Eduardo Klein, Venezuela</i> 議論・質疑 <i>Moderator: Dr Sergey Belov, Russia</i>	16:30	8. パネルディスカッション <i>Moderated by tbc</i> <i>Panelists: Keynote speakers of all sessions</i>
18:00	休会	17:00	閉会

＜日本海洋データセンター（JODC）及び

海洋データ・情報の国際交換に関する委員会（IODE）＞

各国間の海洋調査研究の調整・協力を目的にユネスコに設置された、ユネスコ政府間海洋科学委員会（UNESCO/IOC）が推進している、海洋データ及び情報の国際交換を促進するため、1961年の第1回IOC総会で決定されたプログラム。

同プログラムでは、持続的な海洋データ及び情報の管理のため、各国に海洋データセンターの設立を奨励しており、現在IODEの下、世界に96のデータセンターが設立されている。

日本においては海上保安庁の日本海洋データセンター（JODC）がIODEの品質管理基準をクリアした認証国立データセンターを運用しているほか、（国研）海洋研究開発機構が生物地理情報システムのデータセンターを運用している。

IODEの総会は隔年毎に開催され、今回で25回目となる。前回会合はマレーシアで開催され、今回が初の日本開催となる。

＜持続的開発目標（SDGs）に向けた海洋科学のための国連10年＞

持続可能な開発目標は、持続的な開発のための17のグローバル目標からなる国連の開発目標で、海洋に関する持続的開発目標14の中でUNESCO/IOCが海洋科学の能力強化の役割を担っており、UNESCO/IOCが2017年国連第72回総会で、その実現に向け2021年からの10年間で「持続的開発目標（SDGs）に向けた海洋科学のための国連10年」として、各国際機関・国際プロジェクトと連携し取り組むことを提案し、採択されたもの。

＜海洋状況表示システム＞

我が国の海洋状況把握（MDA）の能力強化に向けた取組の一環として、今春から海洋情報を集約・共有するためのサービスとして、海洋状況表示システムを運用する。同システムは、海上安全、自然災害対策、海洋環境保全、海洋産業振興といった様々な分野での利活用を目的として、内閣府の総合調整のもと、関係府省及び政府関係機関が保有する様々な海洋情報をインターネット上で閲覧できるサービスである。ユーザーは、様々な海洋情報を地図上に重ね合わせて表示することができる。日本の周辺海域のみならず、衛星情報を含む広域の情報を掲載するとともに、気象・海象のようなリアルタイムの情報も掲載する予定。これにより、従来、関係府省及び政府関係機関が個別に提供していた情報を一元的に利活用することが可能となる。